

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

〈家庭〉 河合小学校PTA会長  
河合地区スポーツ少年団団長  
〈地域〉 河合地区自治会連合会会長  
河合公民館館長  
河合地区社会福祉協議会会長  
河合地区女性部代表  
〈学校〉 校長 教頭 教務主任

#### ※地域コーディネーター（2名）

河合公民館館長  
河合地区社会福祉協議会会長

### (2) 協議会の内容

- ・開催数：年間3回
- ・開催日程・内容  
6月27日  
教育方針説明、地域に根ざした学校づくりについての説明、意見交換  
11月14日  
小中合同：中学校区の取組についての発表、意見交換  
2月28日  
1年の取組報告、学校評価、課題についての意見交換

### (3) 協議会における成果と課題

- ・地域に戻ったときの児童の様子を聞くことができ、その状況を踏まえ「伸ばしたいこと、育てたい力」などについて話し合うことで、家庭・地域・学校が足並みをそろえて児童を育てていくという意識をもつことができた。
- ・地域行事に積極的に参加してほしいという地域の願いを共通理解できたが、地域の行事のほとんどが週休日であり、学校の教育課程に位置付けたり、児童の参加を募ったりすることがなかなか難しい。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域の自然や人との関わりの中で、地域のよさを再発見したり、課題を見つけてそれをよりよく解決したりする体験活動を進めることで、地域に誇りと愛着をもつ児童を育成する。

### (2) 活動の実際

#### ①地域学習「河合のまちを考えよう」（6年生）

6年生は自分たちの地域をもう一度見つめ直し、提案していけることがないかと考え、「河合のまちを考えよう」というテーマで活動を行った。

まず、地域の伝統「凧あげ」について自分たちで調べていく中で、直接地元の方に話を聞きたいという思いをもった。ゲストティーチャーを招いてその背景を学ぶことで、児童は河合地区が自然環境に恵まれていることや、



地域に根ざす伝統を守る人の思いを理解することができた。それを踏まえて、河合の未来について考え、河合地区をよりよくするために自分たちができることをポスターにまとめたり実行に移したりした。

## ②地域の伝統「凧作り・凧あげ」(全学年)

河合地区で行われている凧あげまつりへの参加を目指して、今年度も校内で凧作りクラブが発足し、11名の児童が所属した。毎回、地域の「九頭竜凧の会」の方を招き、指導していただきながら凧作りを行った。10月に行われた「河合ニコニコ王国フェスタ」では、秋晴れのもと、手作り凧をあげ、地域の伝統を実感すると共に、地域の方と触れ合う機会ともなった。



また、地域の伝統を受け継ごうと全学年で凧作りにも取り組んだ。凧あげ集会では運営委員会の児童が企画運営し、各学年の凧を紹介し合い、優れた作品の表彰を行ったり鑑賞会を行ったりした。凧あげ大会では、ペア学年ごとに凧あげを行い、保護者を始め、地域の方や河合保育園の園児なども凧あげを見に集まった。

## (3) 地域コーディネーターの活動概要

児童に直接河合地区についての話をしたり、地域の伝統に詳しい寺井文夫氏との連絡・調整をしたりして、児童の地域学習をコーディネートし、携わった。また、地域コーディネーターが民生委員や地域ボランティアと連携して、児童が活動しやすいように野菜作りなどの企画・準備等を行った。

## (4) 特に工夫した事項

- ・たくさんの地域の方々に児童の体験学習に関わってもらうことで、児童が地域について興味をもち、より深く学ぶことができるようにした。
- ・児童が地域について学んだことをまとめ、公民館まつりやアイラブ河合などのイベント会場に掲示するなど、多くの地域住民に学校での地域学習の活動内容を見てもらう場を設定した。
- ・「風のまち河合」の特性を生かした凧あげという地域の伝統を受け継ぎ、児童全員が凧作りを行い、全校での凧あげ大会を行うことより、地域のよさを実感できるようにした。また、ゲストティーチャーを招き、河合地区の凧あげの歴史を学ぶことで、凧あげの伝統についての理解を深めることができた。

## (5) 成果と課題

- 地域学習について、地域コーディネーターに調整していただき、地域の方に直接話をしてもらう機会を得たり、実際に地域に出るの活動を多く取ったりしたことで、児童が主体的に学び、自分の地域について理解し、誇りをもつことにつながった。
- 地域の伝統「凧作り・凧あげ」においても、「九頭竜凧の会」の方など地域の人材を活用することで、意欲的に活動に取り組み、地域の伝統への理解を深めるとともに、それを継承していこうという思いをもつことができた。
- 今年度は地域について学んだことをどのように発信していくかを模索し、地域のイベント等でポスター掲示を行った。今後はさらに効果的な発信手段を考えたり、どのように地域に還元していくかということまで考えたりして児童自らが活動するようしていくことが課題として挙げられる。

(様式 3)